

認定特定非営利活動法人

# 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階  
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室  
Tel: +86-871-3311468 Fax: +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 日経印刷(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

## 第42号

会報

発行日 2012年(平成24年)8月15日

## 笑顔あふれる未来へ— 「25の小さな夢基金」ふれあいの旅

「25の小さな夢基金」サポーターが、支援する高校生たちに会い「ふれあいの旅」が今年も6月27日から7月4日に行われました。時はまさに七夕の直前、年にたった一度だけお互いに顔を見て話せる機会ということもあり、日本からは18人が参加。現地集合を含む21人が、子供たちの元気に成長している姿に接するとともに、日ごろ話をする機会がない会員同士で親交を深めた8日間でした。

「夢を語る」同窓会は昨年引き続き2回目。春雷クラスの同窓生、卒業生約100人に加え、雲南大学滇池学院から駆けつけた通訳ボランティア17人、さらに地元テレビ局の取材まで入り、会場は140人近い参加者で埋まりました。あいさつに立った樋口忠治協会顧問は「初鹿野理事長の望みの一つは、皆さんに日本と雲南の架け橋になってもらうことだと思う。国の関係に波風が立っても人と人の関係こそ大切で、皆さんは日本を第2の故郷とってください」と呼びかけました。

サポーターと支援学生は同じテーブルに座り、初対面でもすぐに打ち解けました。春雷クラスの子供たちは、様々な団体から援助を受けているためみんな頑張る屋さん。子供たち自身の口からも、「頑張った」「高校に入って自信をもてるようになった」といった言葉が随所に聞かれ、頼もしく思えました。

同窓会では「うちわ作り」や「盆踊り」(民族舞)などの活動で交流を深めました。うちわ作りでは、日ごろ絵を書く機会のない支援者たちが四苦八苦、すいすいと仕上げた子供たちを横目に「へへのもへじ」など苦し紛れの珍品が続出しました。踊りの得意な少数民族の子供たちは盆踊りもあっていう間にマスター、日本から持っていた浴衣も大変よく似合い、心なむひと時でした。

スピーチコンテストの総評で岩間辰志顧問は「長い人生の中、学んでいる時間は短い。一番大切なのは一生学び続ける姿勢を作ることです。これからも広く深く学び



●3年間の努力の結晶。みんなよく頑張りました。

の農家は主にお米やトウモロコシを作っているとのこと。もし陳紅さんのように、子供が都会の学校に行くに年々取の三分の一から半分もの仕送りが必要だそうです。少数民族には一人っ子政策が適用されない一方で、子供二人を中学、高校に行かせようとする、友達や親戚から借金をしか方法がないのが現状だそうです。協会の活動が支援を受ける側にとってどういう役割を担っているのか、改めて考えさせられました。

今回の旅では多くの地元政府、財界、教育関係者と会食しました。でも、参加者の心に一番残ったのは、やはり春雷クラスの子供たちと学生食堂で一緒に食べた昼食

●「勉強楽しいよ！」 滄源県永冷小学校で出会ったワ族の子供たち



だったのではないのでしょうか。子供たちの笑顔は、サポーターにとって最大の励みです。夢を語る彼女たちの表情からは、純粋な喜びや希望、あるいは支援を受けて勉強させてもらっている責任感がうかがえました。その視線の向こうにある未来、それこそが教育支援の目的のだと実感も深めた旅でした。

「25の小さな夢基金」ふれあいの旅参加者(順不同、敬称略)

岩間辰志、佐々木英介、田島伸浩、久藤智弘、平本美智明、木本一彰、山田徹夫、大崎功雄、近藤銀一、千々岩新、樋口忠治、三木秀隆、佐伯義博、南里稔、北原聡子、滝澤崇、平田栄一、初鹿野恵蘭、林娜、中洲慶子  
【現地協力団体】雲南省統戦部、雲南大学滇池学院日本語学科、昆明女子中等学校、雲南省留學人員聯誼會(協会支援小学校23校目合同支援組織)雲南省浙江商會黨支部、臨滄市人民政府、臨滄市人民醫院党委、臨滄市文化体育局、臨滄市衛生局、臨滄市招商合作局、臨滄市外事辦公室、臨滄市滄源ワ族自治縣人民政府、臨滄市滄源ワ族自治縣招商合作局、滄源縣勐董鎮永冷希望小学校



- 1 ワ族の小学生たちと。心の交流に言葉はいらない!
- 2 原始村で出会ったワ族のおおあさん。深い顔に、刻まれた時の重さを感じます。
- 3 サポーターも大学生も夢基金生もみんな一緒に頑張ってうちわ作り
- 4 ひとつの輪になって盆踊りを踊りました
- 5 昼食はバイキング。美味しい食事と暖かい交流に笑みがこぼれます
- 6 サポーターは夢基金生にとって、心の支えとなる大きな存在。[夢をもって羽ばたいて]
- 7 通訳として交流を支えてくれた、大学生ボランティアたち
- 8 いよいよ迎える門出の時に、海を越えて駆けつけた「日本のお父さん」も緊張気味
- 9 帰国留學生の組織、雲南省留學人員聯誼會との会議も。協会と共に第23校目の小学校を支援しました
- 10 滄源では野性味溢れるワ族のご馳走に舌鼓
- 11 永冷小学校の小さな給食室。ここで子供たちの食事を作ります
- 12 夢基金卒業生・陳紅さん(右)とおおあさん。昼食をご馳走になりました
- 13 暖かく迎えてくれた陳紅さんの稱賛たち。ご両親は陳さんの学費の為に出席者中でした
- 14 ご両親が留守の陳紅さんの家。何もない様子に参加者もショックを隠し切れない

●夢基金第4期生42名、卒業おめでとう!!

続けてほしい」と訴えました。最後に初鹿野理事長が「皆さんが支援者からいただいているのはお金だけではありません。ぜひ思いやりの心を感じてほしい。皆さんの未来は皆さんの手の中にあります。感謝を忘れず、愛をもって社会を歩んでください」とエールを送りました。

翌日の卒業式では、春雷クラスを巣立つ42人の生徒が、晴れやかな表情で卒業証書を受け取りました。楽しかった学園生活を終え、それぞれ次のステップに踏み出す子供たちの瞳は輝きに満ちていました。驚いたのは卒業証書の中に成績表が印刷してあったこと。でも大半はAで、BやCはほとんど見つかりませんでした。

その後、一行は卒業生の陳紅さんのおじさんが住む臨滄市滄源県永冷村へと向かいました。バスを降りた一行をまず迎えてくれたのはトラクターにつながれた牛でした。陳さんのおじさん陳小明さんによると、このあたり

### お母さんから感じる生活の重み—人間の素晴らしさを学びました



●「雲南の孫娘」李英さん、そしてその母・李石妹さんと感動の対面

大崎功雄さん

同窓会と卒業式に初めて参加し、今年の卒業予定者、1年生、それに2年前の卒業生の合わせて5人の支援生徒たちに会うことができました。圧巻は、卒業する李英さんのお母さんが10時間もかけてわざわざ駆けつけてくださったことです。お母さんの脳裏にはいったい何が浮かんだでしょうか。緊張気味の母親を笑みを絶やさずそっと労る娘、そこに一種の安堵とこれからの決意の強さを感じられました。また、声を震わせて父親の苦勞を語ってくれた卒業生のスピーチからも痛いの願いが伝わってきました。卒業式も校長先生が一人ひとりにひと言添えながら証書を手渡している光景には、日本の形式張ったそれと比べて、何と伸びやかで心温まるものだろうかと思心することしきり。滄源では、7族の生徒さんの実家での交流、永冷希望小学校参観と、行く先々で人びとの温もりに出会いました。この旅を通じて人間の素晴らしさを学びました。私自身、真っ直ぐに生きる勇気と励ましをいただいたように思います。

### 日本語スピーチコンテスト in 「夢を語る」同窓会



見事優勝した于瑋さん

卒業式や「夢を語る」同窓会での交流を通して支えてくれているのは、日本語を学ぶ大学生ボランティアたち。今年の同窓会では、そんな学生たちによる日本語スピーチコンテストも行われました。ちょうど1週間前に協会主催のビジネスマナー研修が行われており、テーマはずばり「マナー」。コンテストには6人が参加、日中の食事に関するマナーの違いをユーモラスにスピーチした于瑋さん(雲南大学2年生)が見事栄冠に輝きました。



### 羽ばたけ! 日中の架け橋たち

## 「アジア未来への人材プロジェクト」第1回日本文化理解研修、大成功のご報告

日本語を学ぶ雲南の大学生に、日本の企業や団体で即戦力になるためのスキルを身に付けてもらおうと協会はこの度「アジア未来への人材プロジェクト」を発足。その記念すべき第1弾として6月23日と24日、昆明市にある雲南大学滇池学院で「第1回日本文化理解研修」を開催し、日本語科の2、3年生39人が人生初の本格的なビジネスマナー研修に取り組みしました。協会の現地活動を様々な場面で支えてくれている雲南の大学生ボランティアの多くは、熱意を持って日本語を学んでいるものの、卒業後の活躍の場は限られており、折角の情報もやり場のないまま萎んでしまうことがほとんどでした。協会では、そんな大学生を手助けできればと当事業を企画。講師はこれが初の雲南訪問となった滝澤崇さん。現代時代はビジネスマナーのプロとして長らく活躍されてきました。

「いろいろなマナーを勉強し、人生の中でとても貴重な知識となりました。」「これからもっとこのような研修を実施して下さい。日本文化、社会、歴史など知りたい。このような研修は日本を理解するのに必要です。」雲南大学滇池学院で開催された日本文化理解研修〜見えるマナー・聞こえるマナー〜は、大好評のうちに終了しました。

研修では日中のビジネス文化の違いを考えることから始まり、身だしなみと服装、第一印象の大切さ、姿勢とお辞儀、面接の受け方、敬語など社会人としての基本を初め、上座・下座、お茶の入れ方・出し方といった日本社会独特のしきたり、電話の受け方と職場のルール、報・連・相、接客など日本企業におけるビジネスマナーのポイントを2日間の研修でみっちり勉強しました。

講師を務めたのは、大手サービス企業で人事研修を担当していた当協会企画部長の滝澤崇さん。滝澤さんのユーモアに研修では終始笑い声が絶えず、フレンドリーな雰囲気になりました。「講師が優しくてユーモアがあって大好きです」「日中友好の架け橋のために先生の指導をもう一度仰ぎたい」など、滝澤先生、大人気でした。

今後、協会では、内容をより分かり易く、より充実させながら日本文化理解研修を雲南省各地で定期的実施していく計画です。

(プロジェクト・マネージャー 北原聡子)



▲北原聡子PMと滝澤崇講師。この日のために半年間準備してきました!



▼日本から持ち込んだ茶葉を使って、お茶の淹れ方も実践



▼最後は参加者全員に修了証書を贈呈。選抜された修了証書(右)



### 初の試み! 「日本文化理解研修」を終えて



講師・滝澤 崇さん

協会にお世話になって以来、中国訪問を拒み続けてきましたが、遂に行って参りました。北京空港での乗継や衛生面など不安だらけでしたが、行ってみれば何のこともなく、乗継も順調で、体調管理は自己責任と割り切りました。限られた日数での『日本文化理解研修』は駆け足でしたが、中国の学生達との初交流を大いに楽しみました。彼らの積極性や知識レベルの高さ、向学心の強さには目を見張るばかりで、まさに「不測則返」そのものです。まだまだ公衆道徳の遅れや衛生面での整備不足は否めませんが、至る所で行われている道路工事業や高層ビルの建設ラッシュには、中国のパワーを見せ付けられる思いでした。パワーとマナーを身に付けた彼らが世界で活躍する日は遠くないと信じています。お世話になった多くの皆様に「謝謝」!



雲南大学滇池学院日本語科講師 高明さん

2日間の研修で、学生は日本社会、特にビジネス分野に対して大いに理解を深めることができました。また、滝澤先生、北原さんをはじめとする協会の皆様方が仕事に向きあう真剣さ、熱心さに学生たちも、そして私たち教師も感心しています。我々が学ぶべきところです。学生たちは、日本のおじぎの作法等も習ったことがあります。しかし、その「型」は知っていても、「精神」までを理解するには至りませんでした。今研修を通し、知識や基本作法だけに限らず、その場に応じた丁寧な言葉遣いや表情やマインドを学びました。研修は短い時間でしたが、違う学年の学生たちとも交流し、友情を深めるという側面もありました。「日本文化理解研修」を修了した学生たちが、将来社会の現場で活躍することにより、日中関係の発展に貢献すると確信しています。今後も、協会の協力を得て、このような活動を続けていければと思います。

## 広がる協会活動 日本と雲南の未来を担う雲南大学の若者たちとともに



自前のパソコンを持ち込んで作業をするインターン生たち。次々とアイデアが湧き出ます。

設立から12年、協会はこれまで小学校建設や「夢基金」などの子供たちの教育支援を行ってしてきましたが、いまや活動の輪は大学生にも広がっています。協会の趣旨に賛同する日本語専攻の大学生たちが昨年11月『雲南大学生協力会』を結成、現地で通訳や翻訳のボランティアとして積極的に活動してくれています。彼らにとって協会でのボランティア活動は、日本人と直接に接し、文化や精神を学ぶ貴重な機会でもあります。また今年は、夏休みに協会雲南支部でインターンシップを実施。前後期各2週間、それぞれ3名の学生が参加しました。前期は、日本の経済界の大先輩が今年10月28日に雲南の大学で初めて開くフォーラム「理想と行動力」を企画。規模の大きさと初めての企画制作りに戸惑っていた学生たちも、テレビ会議で理事長にお褒めの言葉を頂き、やりがいを実感していました。後期は9月から始まる昆明女子高校日本語授業のカリキュラムを作成。日本語専攻の学生ならではの柔軟な発想で、日本の漫画や流行を取り入れた楽しい授業が考案されました。学生たちは、授業本番でもアシスタントとして活躍する予定です。互いの創造力と情熱を引き出し、雲南中に日中友好の輪を広げるため、支部事務局と学生の奮闘はまだ続きます。



### 速報! 第4回「夢は叶う」講演会講師決定!

講師を引き受けてくださった加藤丈夫さん(右)。ご紹介くださった新井淳一協会顧問とともに。

協会では2009年より、「25の小さな夢基金」で応援する少数民族女子高生の通う昆明女子高校で「夢は叶う」をテーマとした講演会を開催してきました。講演者は、世界を股にかけて活躍する日本の大先輩たち。雲南の山奥で育った女の子たちにとっては大都市昆明で勉強すること自体が夢のような話ですが、彼女たちが更に大きな視野を持ち、大きな夢を抱いて社会に羽ばたけるよう、講演によって背中を押ししたいと思います。4回目の開催となる今年は、富士電機株式会社・加藤丈夫元会長が講師を引き受けてくださいました。異国の若者と交流を楽しみにして下さっている加藤さんは、講演会の他にも、大学生フォーラム「理想と行動力」などの活動にご協力くださいます。海を越えてやってきた偉大な先輩のお話、雲南の若者たちが得るものはとても大きいはず。今年の「夢は叶う」講演は10月27日の開催です。乞うご期待!

# 日本生まれの児童劇が、もうすぐ少数民族の子どものもとへ

協会、劇団道化、そして中国児童芸術劇院の三者による夢遊れるプロジェクト「雲南少数民族子どもの笑顔5000人公演」まであと1ヶ月。プロジェクトでは、雲南省の少数民族地域にある協会支援小学校5校を三者が巡回し、上海国際児童劇祭のグランプリ作品「しよぼうじどうしゃじぶた」を上演します。7月には初鹿野理事長が北京を訪れ、雲南省出身の中国児童芸術劇院・周予援院長と面会しました。また、道化・篠崎省吾理事長の案内で「じぶた」日本大使館公演を參觀。大使館の山田重夫公使と1時間に及ぶ会談を行い、公使からは「9月の支援校公演は勿論のこと、今後の活動にも大いに期待しています」という嬉しい言葉を頂きました。

道化と児童芸術劇院は4年前から提携をはじめ、道化の作品を劇院が中国語で上演するなど、児童劇による日中交流を行っています。大使館公演の翌日には協賛企業公演もあり、それぞれ100組余りの中国人親子と日本人親子が観劇、ひとつの劇で日中の子供が同じ感動を分かち合いました。雲南の子供たちにもその感動を届けるため、協会、道化、劇院は現在最後の調整に入っています。

「じぶた」はもうすぐ雲南に行くよ！  
日本大使館・山田重夫公使も出席してくださっています(右から3人目)



中国語で「じぶた」を上演する劇団道化のメンバーと児童たち。

### 2012「雲南少数民族子どもの笑顔5000人公演」日程(予定)

- 9月3日 日中友好老村橋心小学校①
- 9月4日 日中天興周達橋心小学校②
- 9月5日 老木郷小学校③
- 9月7日 小中甸鎮中心小学校(旧阿央谷、共卓小)2回公演④
- 9月10日 日中友好西山良洋小学校⑤



## 劇団道化支援公演 筑紫野市文化会館で 2日間限定写真展開催!

7月9日、劇団道化は中国での一大プロジェクトに向け、福岡県筑紫野市で「じぶた」の送り出し公演を行いました。当日は200名の観劇者で大盛況。その「じぶた」公演と、前日に行われた筑紫野市内全中学校吹奏楽部の合同練習会に合わせ、会場の筑紫野市文化会館ロビーで、2日間だけの協会写真展「笑顔を君に」が開催されました。今回の写真展は劇団道化のご提案で実現。会場設営や100点近い展示物の陳列など、全て劇団の皆さんが行って下さいました。たった2日間の写真展でしたが、中学生や父兄、それに劇団公演を見に来たたくさんの方々の皆さんで、会場は大賑わいだったということです。道化の皆さん、筑紫野の皆さん、ありがとうございました!



会場には、福岡県筑紫野市文化会館からののお花も!

## 「夢基金」春蓄クラスで 日本語授業始まる!



協会と昆明女子高校の提携が始まりました!  
左から二人目が史雲波校長

当協会が「25の小さな夢基金」で支援する昆明女子高校春蓄クラスで、今年9月より日本語授業が始まります! 日中友好の担い手となる生徒を育成する目的で、日本語授業は初鹿野理事長のかねてからの夢でもありました。今回、学校の支持を得て、とうとう実現します。生徒たちは日本からサポートを受けているとはいえ、テレビやパソコンが身近にありませんから、日本については授業で習う程度。語学学習を通じて生の日本文化に触れ、日本への共感を持ってもらいたいと思います。ただし、授業計画の兼ね合いで日本語授業は2学年の1年間のみ。初めての試みなのでどんな授業になるのか、また1年間での程度習得できるのか、手探りのスタートではありますが、サポーターの皆さんに日本語のお手紙が届く日も、そう遠くないかもしれません。

## 日本と雲南の経済をつなぐ 教育支援も、草の根交流も、そして経済も!

4月の臨涪市来日に続いて、5月には雲南省招商合作局・杜勇局長をトップとする省政府関係者および企業7社の代表団が来日し、日本企業関係者と交流しました。協会は、福岡・東京二か所における経済交流会に全面的に協力しました。

5月11日、福岡で開かれた交流会には、日中合わせて55名が参加しました。「アジアの玄関」福岡で、雲南省が経済交流会を行うのは初めての事です。また、代表団一行はこの日、交流会に先立って福岡市内を視察。午前中は箱崎埠頭株式会社を訪問し、岩瀬信一郎社長のご案内で、港湾物流の管理工程や工場設備を視察しました。昼には中村学園大学を訪れ、最新の栄養管理システムを導入した最先端の学食「食育館」を体験しました。今回の交流会と視察は福岡アジア都市研究所のご協力で実現しました。

東京での交流会は5月15日に開催、100名を超える来場者で会場がいっぱいになりました。



最先端の栄養管理が行われている学食に、杜勇局長もびっくり!



福岡での開催にご尽力くださった福岡アジア都市研究所・合野弘一理事



両会場とも参加者が定員を超える大盛況でした  
▲東京会場には劉平・雲南省副省長のお姿も(写真中央)。初鹿野理事長、岩瀬信一郎氏と

### ◎「雲南省来日経済交流会」

5月11日 17時～19時 ホテロークラ福岡後援 中華人民共和国駐福岡総領事館・福岡市、(公財)福岡アジア都市研究所 挨拶 中華人民共和国駐福岡総領事館・鄭維強領事 認定NPO法人日本雲南聯誼協会・初鹿野恵副理事長 福岡市経済観光文化局・合野弘一理事 国連ハビタット福岡本部・星野孝代本部長補佐官 協力: NPO法人劇団道化

### ◎「中国・雲南省来日経済提携交流会」

5月15日 17時～19時 ザ・プリンスパークタワー東京 挨拶 中華人民共和国駐日本国大使館・呂克俊公使 認定NPO法人日本雲南聯誼協会・初鹿野恵副理事長

【ご協力・ボランティア(敬称略・順不同)】 樋口忠治、渡平元辰、箱崎埠頭株式会社、学校法人中村学園・中村重一理事長、唐寅、NPO法人劇団道化、佐々木英介、張南、高橋なつ子、李莉、中村有里子、滝澤崇、日本商工会議所

## ★ 日中の架け橋 育成事業に ご期待を!

### 役員顧問会 & 定時総会報告

6月12日、協会事務局で今年度1回目の役員顧問会、また17日には八王子市学園都市センターで第12回目の定時総会が開かれました。総会では、林則幸会長が制作した映像の放映のほか、活動報告や今年度の活動計画について話し合われました。



2011年度の主要活動の一つ「東日本大震災支援交流」では、5月と7月に宮城県内の「女川第二小学校」と「長瀬小学校」を、11月には福島県「金房小学校」「塙原小学校」を訪問。支援金と雲南の子どもたちからの手紙を届けました。今後も東北と雲南の子どもたちが互いに勇気付けられる交流に発展できればと考えています。

今年度の注目は「アジア未来への人材プロジェクト」と昆明女子中高等学校での日本語授業。「日中の架け橋」を育てる2大事業です。協会が種を蒔き、水を注ぐ雲南の大地にどんな花が開くのか?どうぞご期待ください!

### 【当日出席者(順不同、敬称略)】

【2012年度第1回役員顧問会】初鹿野恵副、大鷲修平、中村有里子、初鹿野薫(以上理事)、村松健児、佃純誠(以上監事)、新井淳一、小澤文雄、片岡巖、東郷浩(以上顧問)、山田美菜、張南、滝澤崇、林則幸(以上事務局)

【第12回定期総会】初鹿野恵副、初鹿野薫、遠藤功理、中村有里子、大鷲修平(以上理事)、佃純誠、村松健児(以上監事)、片岡巖、東郷浩、新井淳一(以上顧問)、奥島弘久、寺内明子、初鹿野道子、初鹿野仁、林則幸、滝澤崇、事務局

## 協会ボランティア通信 連載 第4回

### 「賞しさが私を成長させた」 頼備さん

30歳を少し過ぎたばかりの頼備さんですが、若いパワーで長年に渡り協会活動を変えてくれています



協会のさまざまなイベントで大活躍

「貧乏を経験したことが私を成長させてくれました」。ウェブの作業や翻訳を手伝ってくれる頼備さんは初鹿野理事長と同じ雲南省昆明出身。北京大と東大大学院でコンピューターサイエンスを学び、北京大出身者の交流会会長を務めるなど輝かしい経歴の頼備さんだが、ボランティア活動への原動力は意外なところにあった。

実は頼備さん、留学当初は京都大に在籍、「研究生」という日本独自の身分だったため、奨学金をもらえなかった。日本語が話せず、アルバイトもできない。暑い夏の日、自動販売機のコカコーラを見てため息が出た。「高く買えない」。食料品の割引が始まる夕方6時過ぎにスーパーに行き、鶏肉ともやしばかり買う生活を1年ほど続けた。

エリートコースを歩んできた頼備さん、京都で苦勞し、その後の東大で奨学金のありがたさを痛感した。「受けた恩は社会に返したい」。2005年から協会と関わり、経済的にようやく少し余裕ができた今、「小さな夢基金」で一人の里親を務める。「人生は“不能等”(待てない)。金持ちになったら、出世したら、と言いつける人は結局何もありません」

現在、米国で就職先を探している。「日本に残ればいい生活が保証されていますが、それでは物足りない。快適さに麻痺してしまうことを恐れる。「もっともっと勉強して、自分の力で運命を切り開きます」。米国に行っても協会の活動には関わりたいという。「協会の成長とともに支援の目標も成長して、これから何をやっていくか、これに関心を持っています」。頼備さんに負けないよう、我々も前進します。

### 合同写真展 「アジアの子どもたち」 開催報告

国際協力団体4団体の合同写真展「アジアの子どもたち」が5月25日からの3日間、横浜市のかながわ県民ホール展示場で開かれました。

写真展には協会が出品した雲南の少数民族のほか、カンボジア・スリランカ・インドで明るくたくましく生きる子供たちの写真200点余りが展示されました。

3日間の会期中、中一日は来場者の出足が鈍ったものの、それ以外の2日間はひっきりなしにお客さんが訪れ、3日間で400人を超える人出となりました。お越しくくださった皆様改めて御礼申し上げます。

【ボランティア協力(敬称略・順不同)】太田益富、奥協弘久、岩沙立、立林由紀、三浦勝己、佐々木英介、近藤駿一、初野野穂、事務局(滝澤崇、山田美葉、林則幸)

### 協会写真展 国際都市さいたまに 二度目の上陸!

外務省2012日中国民交交友好年公式行事  
写真展「笑顔を君に」inさいたま2nd  
6月19日-23日(都府県東口/バルコ9階コマーシャル展示場)



去年に引き続き、さいたまで2度目の「笑顔を君に」開催。今回は写真額61点、パネルや飾り物16点、民族衣装5点を展示しました。会期中の悪天候にもかかわらず、ご来場者数は260名を超え、国際協力のイベントが盛りなさいたま市の市民の意識の高さを伺わせました。ご協力いただいた会員・ボランティアは5日間でべ35名にものぼります。皆さん、本当にありがとうございました。

【ボランティア協力(敬称略・順不同)】川口邦夫、大泉国雄、青柳茂樹、小川謙夫、高橋裕子、大野真子、市川由美子、服部恵美子、郭峰、斉藤誠、金子沙穂、松本コパー、鳥羽清弘、寺内明子

## 連載 鏡頭裏の世界 No.12 小さな機織り娘さん

村の土産物屋さん、店の脇で可愛らしい娘さんが一生懸命に機織りしていました。店の中を見れば、民族衣装やカバンが沢山。この子が織った布でも作られているのかなと思うと、つい財布も緩くなり、値引き交渉も甘くなり、気付けば民族衣装を買っていました。

(撮影:久慈智弘、2012年7月 雲南省臨滄市滄源県)



皆様のご投稿をお待ちしております!

データ: yunnan@jyfa.org

郵送: 〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13 1階  
日本雲南聯誼協会「レンズの中の世界」係

### 協会誕生の地! 八王子市三田町で講演会



華やかな民族衣装に、乙女気分がよみがえる!?

初鹿野理事長が7月26日、八王子市三田町町会館で「異文化を学ぶ」をテーマに、雲南について講演しました。集まったのは地域のお年寄り約30名。会員の林則幸さんが製作した映像で少数民族を紹介したところ、その美しさに感動のあまり涙ぐむ方も。民族衣装の試着は予想以上に盛り上がり、最後は会員のソプラノ歌手・高山千代美さんのリードで、懐かしい日本の名曲を大合唱!日本と雲南の間に小さな友好の架け橋がかけられました。



高山千代美さんのリードで、感動の大合唱

### ● 雲南支部に待望の日本人職員! はじめまして! 中洲愛子です

4月から雲南支部に赴任しました。今、雲南省という素晴らしい土地で素晴らしい仕事ができることに、自信と誇りを持って動いています。この4ヶ月間はイベントの度に感動や喜び、発見がありました。雲南大学で開催した日本文化理解研修では、必死に学ぶ大学生の姿勢に感動し、大学生育成に協力したいと心から思うようになりました。「25の小さな夢基金」の同窓会・卒業式では、春雲クラスの生徒たちの発言に目頭が熱くなり、支援の大切さを学びました。特に今回の同窓会は、企画から実行まで雲南支部主導で行いました。参加サポーターの方々には、「去年より更に良かったよ」と言っていただけのが何よりの喜びです。人の幸せに触れ、人を感動させることが出来る一今後もポジティブに、現地でもよりよい活動が出来るよう取り組んでいきたいと思っています。



ふれあいの旅で訪ねた小学校にて

## ★25の星たち

### 連載第22回 スイ族



スイ族の歴史をさかのぼると、古代の越人、中国南方に集落を構えた“百越”の民族にあたります。雲南のスイ族は主に雲南省東部と貴州省黔西南ブイ族ミャオ族自治州との境界に住んでいます。語り継がれているのは、風景や民俗を題材にした愛情、善悪、笑い話など民族の起源や大自然の力に関わる民話です。民族出身の有名人に、日本で「無

国籍9頭身美女」として話題のモデル Cica (周卓彤) があります。女性の服装には特徴があります。上着はタイト、長袖で右開きの襟で襟の縁は刺繍付きです。ズボンには腰とヒップが細く、足の部分は太くなるブーツカットのような形です。男性は簡単で、大人は長袖の短いベストを着て、ストレートのズボンに麻のわらじです。頭は布で巻き、自家製の掛カバンを肩に掛けます。

漢民族の春節とほぼ同時期に「端節」という祭りがあり、世界で最も歴史が長く、最も期間が長く、そして濃厚な祭りだと言われています。専門家によると祭り期間は50日を超え、競馬などを行うとか。お祭り好きですね。

▲「25の小さな夢基金」を今年卒業した碧穂さんもスイ族

### 平田特命支部長インタビュー! — その6 — 棚田の郷「新街鎮」

雲南省は省土の97%が山である。北西部はヒマラヤ山系から続く標高5000mの山々が連なり、東南部に向かって徐々に低くなっている。海拔が最も高い場所は6740mの梅里雪山(中国で2番目に高い山)、最も低い場所は南溪河と元江(ベトナムに入ると「紅河」となる)という川が合流する河口県(ベトナムとの国境)で海拔はわずか76mである。お陰で雲南省は地形が複雑多様で、景色はどこへ行っても美しい。「棚田(棚田)」で有名な元陽の街は元江のほとりにある。棚田は元陽からさらにバスに揺られて南へ小1時間ほど山を登り、「新街鎮」という集落まで行かなければならない。われわれが棚田を訪ねた日、棚田は雲に覆われていた。なにせ標高2000mを超える高地の斜面ゆえ始終雲に覆われ、なかなかその全景を目にすることは難しいようだ。案内を頼んだタクシーの運転手さんご推奨の場所で待つこと数時間、運の良いことに雲が消え、水を張った棚田を見ることができた。「人間が造り、時間と自然が風景にした」と同行のバッドが洒落たことを言う。美しい風景が言わたのかもしれない。



新街鎮で出会った農家の主婦(写真左)

氏名: 楊琴(ヤンクワン)さん  
年齢: 26歳 / 職業: 農業 / 家族: 5人  
大切なもの: 家族、健康、平安  
尊敬する人: 父母、夫  
日本を知っているか: 知らない

新街鎮の食堂で朝食を食べていると「ハロー」と声をかけてくれた。イ族の農家の養殖主婦だそうで、別れ際に「ありがとう」と日本語を話してくれた。

- ※ 平田栄一さんは2年前の昆明留学を終え、先月無事に帰国されました。特命支部長としてのご協力、本当にありがとうございました!
- ※ 次号、棚田報告を楽しみにお待ちしております。

## イベント情報

日本の児童演劇が驚く  
中国省都と少数民族の子どもの笑顔5000人公演  
日時: 9月1日(土)~9月15日(土)  
場所: 中国雲南省  
合同主催: NPO法人劇団団造化、中国児童芸術劇院

第8回 雲南省少数民族貴国児童・教育支援  
チャリティゴルフコンペ  
日時: 10月13日(土)  
場所: 大月カントリークラブ(山梨県大月市)

第4回  
「夢は叶う」講演会  
講師: 加藤丈夫さん(富士電機株式会社・元会長)  
日時: 10月27日(土)  
場所: 中国雲南省昆明市

雲南大学学生フォーラム「理想と行動力」  
講師: 加藤丈夫さん  
新井淳一さん(協会顧問/日本経済研究センター顧問)  
日時: 10月28日(日)  
場所: 中国雲南省昆明市

「小さなカメラマン」写真展  
日時: 10月31日(火)~11月5日(月)  
場所: 町田市フォトサロン(東京都町田市)

寒水・能見ダンスグループ 雲南公演  
日本の踊りがつづく! 雲南の若者と少数民族の舞、魂の文化交流  
日時: 11月23日(金)~28日(水)  
場所: 中国雲南省昆明市、臨滄市

全国巡回写真展  
「笑顔を君に」in近江八幡  
日時: 12月8日(土)~23日(日)  
場所: 近江八幡市図書館(滋賀県近江八幡市)

第12回チャリティ会  
「日本と雲南省少数民族友好の夕べ」  
日時: 12月22日(土)  
場所: 恵比寿ピヤステーション(東京都渋谷区)

※ 外務省2012日中国民交交友好年公式行事(含申請中)

## 編集後記

「ふれあいの旅」で雲南に行ってきました。大都会昆明からミャンマー国境の農村臨滄までの距離と、二つの地区の経済発展の格差に改めて中国の大きさを実感しました。同時にこの二地区に行ったことで、少数民族の子供たちが都会で学ぶことがいかに大きな挑戦であり、親族にとっても大事業であるかが少し分かった気がします。教育支援と一口に言っても、就学環境を創ることから能力の開花を後押しすることまでさまざまです。協会の仕事もまだまだありそうです。(編集長・木本一彰)